EdTech 導入補助金2021

令和2年度3次補正 学びと社会の連携促進事業
（先端的教育用ソフトウェア導入実証事業）費補助金

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社エル・インターフェース

【ツール名】

CollegePathway（カレッジパスウェイ）

【ツールの機能分類】

学習支援・授業支援(LMS)

2022年2月

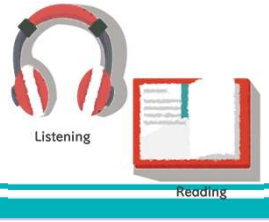
対象製品「CollegePathway（カレッジパスウェイ）」の紹介

CollegePathwayは、英語学習を楽しく、効果的で、達成感のあるエンターテイメント満載のEdTech製品です

2,000時間超の学習コンテンツと定着率を高める独自のシステムで「読む・聞く」といったレセプティブスキルとその基礎となる単語と文法のチカラを徹底的に鍛えるトレーニングツールです。良質な学習コンテンツと高度なICT技術を融合することで、学校での学びを補完する新しい英語の学び方を提案します。

英検対策（5級～1級）から ＴＯＥＦＬ・ＩＥＬＴＳ対策まで

CollegePathwayは英検5級対策から日本の最難関大学の入試対策そして世界最高峰の大学に合格するために必要なTOEFLやIELTS対策等のコンテンツを約2000時間搭載しています。 CollegePathwayでの学習を通して学校で習う英語や受験勉強の英語がIELTSやTOEFLに連動していることが可視化されてくるので、 “学校英語”や“受験英語”の重要性を認識することになるでしょう。
CollegePathwayには、
いまの時代に合った
コンテンツと学び方があります。



学習行動のデータを 自動収集しPortfolio化

生徒一人ひとりの学習行動を自動で収集しデータ化されます。
蓄積された学習データは、My Portfolio（学習カルテ）でグラフや表で分かりやすく視覚的に表し、学習の見直しやモチベーションの維持につなげます。
また、教員用のClass Portfolioでもそれらのデータをグラフやチャートで分かりやすく表示。クラスの学習傾向がひと目で分かり、一人ひとりに的確なフィードバックを与えられます。

ラウンドメソッドと 「My 単語帳」

単語の習熟状況をReadingやListening、Grammarにも連動する機能が「ラウンドメソッド」。単語を多面的・反復的に学び、可視化することで、学習のモチベーションを喚起する効果があります。
さらに「My 単語帳」では覚えた単語はもちろん苦手な単語や間違えた単語、単語に遭遇した回数まで自動集計される
『自分の単語習得史』となるでしょう。

対象製品「CollegePathway（カレッジパスウェイ）」の紹介

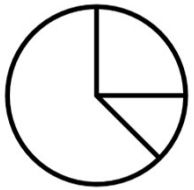
CollegePathway（CP）で収集される学習データについて

CPでは以下のような学習行動のデータを自動収集します。

①学習時間
Listening、Reading、Vocabulary、Grammarのスキル別に学習時間を取得
②学習習慣
1日に一定時間学習することでメダルを獲得。メダル獲得数によって学習が習慣化されているかを可視化
③単語数
意味だけ覚えた単語数とスペルまで覚えた単語数をそれぞれ取得
1つの単語を何回解答したか、正解したかを取得
④達成度
コースワーク（速聴速解・瞬間英作）のレッスン達成度、ホームワークやテストの解答状況などを取得
⑤総合指標
各種学習によって得られるマイレージで総学習量を数値化

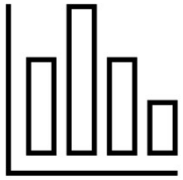
学習行動のデータと英語の成績の関係を検証することができます。

スキル別学習時間

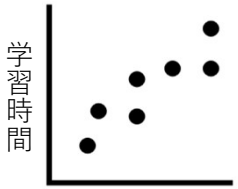


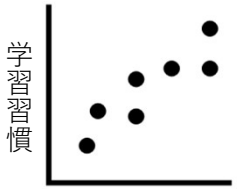
スキルごとの学習時間に偏りは見られないか？伸びのいい生徒はどのようなバランスで取り組んでいるか？

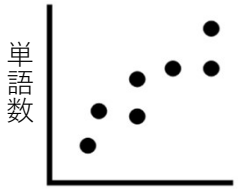
スコア分布



学校全体の英語力の分布はどうなっているか？







学習量や学習時間と英語力に関係があるか。どのくらいの学習量で目標スコアに達成できそうか。覚えた単語数は英語力の伸びに関係あるのか？意味だけよりスペルまで覚えたほうが伸びるのか？

■ 学校等教育機関の抱える課題

ニュースなどで話題とされる教育現場の問題点として

・少子化（＋少人数クラス対応）
・団塊世代の退職による教員不足
・新カリキュラムへの対応
・膨大な業務量
・ICT導入による成果・実証

など、様々な話題が伝えられていますが、実際に訪問した学校様では英語教育に結びつく話題から学校の抱える課題として以下のような具体的な声が聞こえてきました。

課題例 1：習熟度の異なる生徒への対応

現代のグローバル化は、学校教育にも影響が表れており、多様なレベルの生徒が増えている。たとえば、

・英語圏や非英語圏からの帰国子女

・両親もしくはいずれかが外国籍（英語圏もしくは非英語圏）

・教育熱心な家庭で、幼少より英語に親しんだ生徒

・学校教育の中でのみ英語を学習した生徒

そのため、英語教育の現場では上記のような様々な環境で育ってきた習熟度の異なるすべての生徒に標準化された英語教育を行うことは難しいのが実情。習熟度別クラスを設けてはいるもののそれぞれに適切な英語教材をどのように選択するのか、どのように指導を行えばよいか、また、費用面、学習時間の確保など多くの課題がある。

課題例 2：客観的評価実現のための業務量拡大

最近の生徒の傾向として、客観的な評価を気にする生徒や保護者が増えている。その影響もあり、中間試験や期末試験、外部の英語試験に加えて、最大10分程度の小テストを週1回程度行う学校は多い。

小テストの内容として、

①　単語　②　文法　③　演習・応用問題

などである。

現場では、

①テスト問題作成　⇒　②プリントの印刷　⇒　③採点　⇒　④集計

⑤多くの生徒が間違いがちな問題の精査

などを手作業で実施。英語教員の担当学年も3学年など複数学年、さらに習熟度別クラスを担当するため、労働時間が相乗的に増加し続けている。

課題例 3：様々なICT機器導入による現場の混乱

学校での様々なICT機器・サービスが導入され、ID、パスワードを忘れてしまうことで、利用が滞る生徒も多い。学校としては、安全の観点からパスワードは使い回しをしないよう指導せざるを得ない。結果複数のID管理が必要となり、どれがどれかわからなくなってしまい、取り残される生徒もいる。また、指導側もシステム導入の利便性を得るまでに時間がかかり、負担が大きい。

※ここでは、ご訪問時や説明会でのお話をもとにピックアップしております。

■ 学校等教育機関の抱える課題

様々な課題がある中で、本プロジェクトで取り組む課題のポイントを2点取り上げます。

課題1：習熟度の異なる生徒への対応

CollegePathwayはリスニングやリーディング、単語、文法といったスキル別に学習コンテンツが約2000時間搭載されていることから様々な習熟度の生徒への対応が可能。
さらにCollegePathwayでは、生徒の学習行動のデータを自動収集しているため、学習状況の可視化が可能。そこで収集した学習データから学びのスタイルを抽出し、**生徒の学習行動と英語力を分析していきます。**

課題 2：客観的評価実現のための業務量拡大

本プロジェクトは年度途中からの導入ということもあり、従来の紙による宿題やテストを全面的にDX化することは不可能だが、定期的（学校によって毎日・毎週・隔週など異なる）におこなっていた単語や文法の小テストをCollegePathwayに置き換えることで問題の作成や採点、集計にどのようなインパクトを与えうるのか？
DX化は本当に教員の多忙感を軽減・解消できるのか？　その成果をヒアリング調査していきます。

課題1へのアプローチ：習熟度の異なる生徒への対応

CollegePathwayはリスニングやリーディング、単語、文法といったスキル別に学習コンテンツを約2000時間搭載。受講者ごとのレベル差や現場での活用のスタイルが異なるため、今回のプロジェクトでは、以下のような３つの学習モデルを提案し、活用をおこなっていただきました。

2021年９月 → 2022年1月

プレイスメント　テスト

①CP Book 自学自習モデル

システムの利用法のみ情報提供し、利用できるメニューを自由に学習。各教材には学習レベルを提示。個人の主体性に任せる形で学習環境を提供

②コースワーク学習モデル

学習の優先順位として、メニュー内のコースワーク「速聴即解シリーズ」と「瞬間英作シリーズ」の学習を推奨。一定の分量の学習と確認テストの組み合わせで、学習をナビゲートする環境をシステムで提供

③英単語課題学習モデル

学校で利用している単語帳の学習に即した課題モデル。「ホームワーク」機能にて、先生の指定する日付でスケジュール配信・学習するモデルを提供

アチーブメント　テスト

＊プレイスメントテスト/アチーブメントテストは、本システム利用期間内の英語力の変化を見るためにTOEFLmini, TOEICmini, TOEIC Bridgemini のオンライン模試を準備
（テスト種別の選択は学習者が自由選択もしくは先生方にて指示）
学習のスタイルとしては、サービス開始が、学期の途中ということもあり、①、②、③の選択肢で学習を行っていただきました。

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

interface × College Pathway

啓明学園中学校・高等学校様（東京都）での導入事例　①CP Book 自学自習モデル

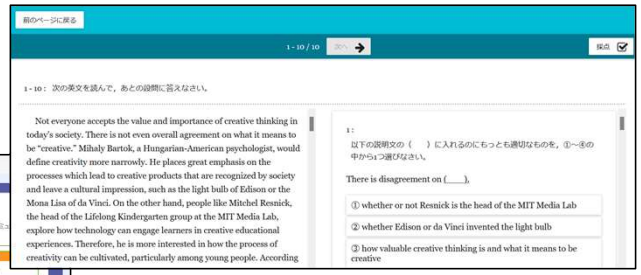
システムで標準的に提供されている教材を自由に選択しながらの自学自習用教材として活用。利用した高校生からは、「大学入試問題などに触れることで自分が目指す大学のレベル感を知るきっかけになった」などのコメントをいただきました。

誰もが自由に学べる教材群がカテゴリごとに収納されています。

①CP Book　自学自習モデル参考メニュー画面

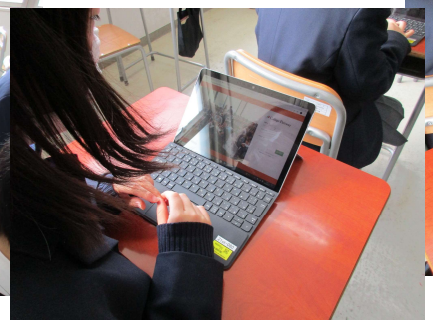
Training Bank内の教材は2000時間ちかくの教材を提供。レベル診断の結果などを目安に、自分の苦手分野や伸ばしたいスキルの学習に取り組むことができます。

大学別入試問題サンプル



大学入試問題のサンプル画面

問題毎の学習済み単語数を確認することで現在の英語力と本番に向けた不足分のレベルを感じることが可能



学校の自由時間などで学習していただいている様子です。英検対策などにも活用いただけました。

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

interface × College Pathway

②コースワーク学習モデル

基本構文800では15回に区切られた例文を
ディクテーション教材として学習

確認テストが付属しているので学習
の定着具合を簡単に確認できます。

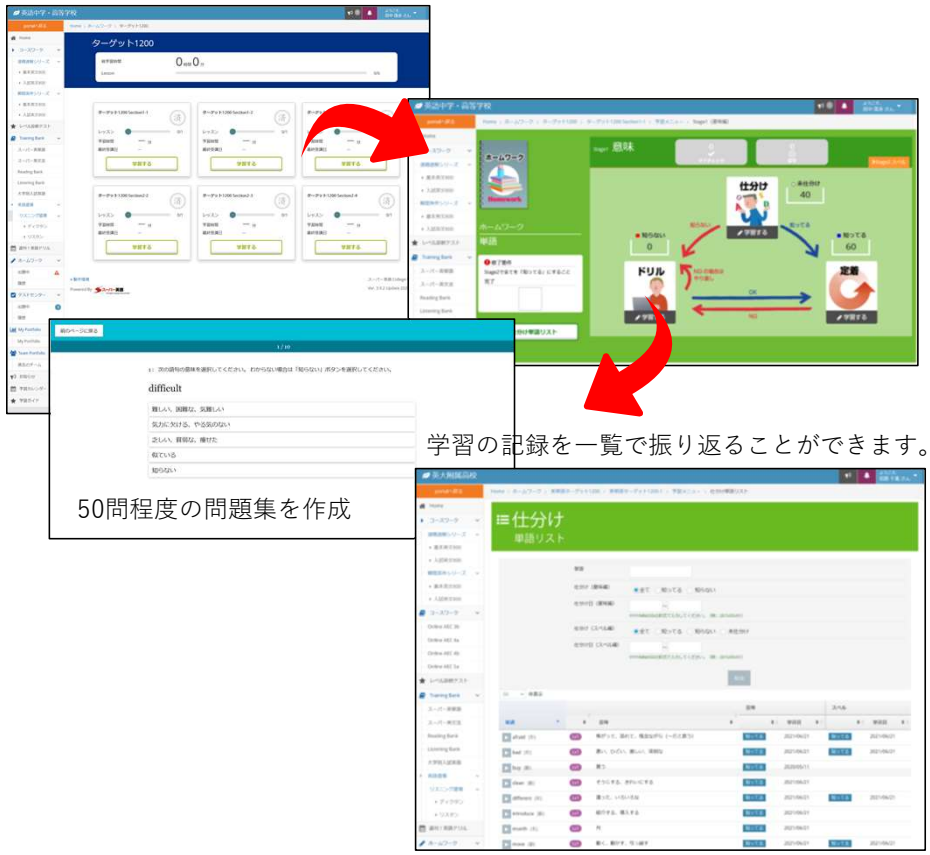
1つのLessonは50例文なので
1週間程度で気軽に学習可能

各教材は５から15ワード程度
なので気軽に学習可能です。

学習と確認テストがペアになっているので、定着状況がわかりやすいと好評を
いただきました。

③英単語課題学習モデル

学校で利用する単語帳(ターゲット等)に合わせたCP版単語集を学校ごとに作成



50問程度の問題集を作成

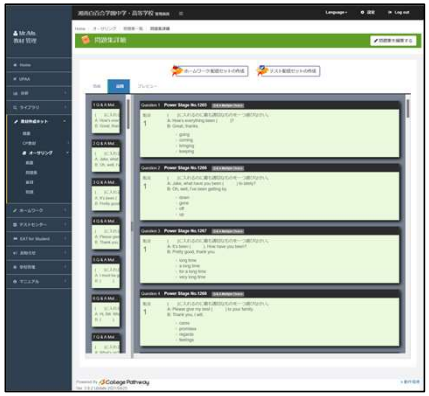
学習の記録を一覧で振り返ることができます。

授業の進捗に合わせて問題をスケジュール配信
教材のカスタマイズが容易なので半分の学校で活用いただきました。

課題 2へのアプローチ：客観的評価実現のための業務を自動化

学校では日々の学習への取り組みを客観的に評価するためミニテストなどを実施。
今回のプロジェクトでは**CPの豊富な問題群をベースに、特定の教材に依存することなく、授業にマッチした問題作成・配信・採点・記録・集計などの運用をシステム上で補完**させることで、業務量を大幅に削減いただきました。

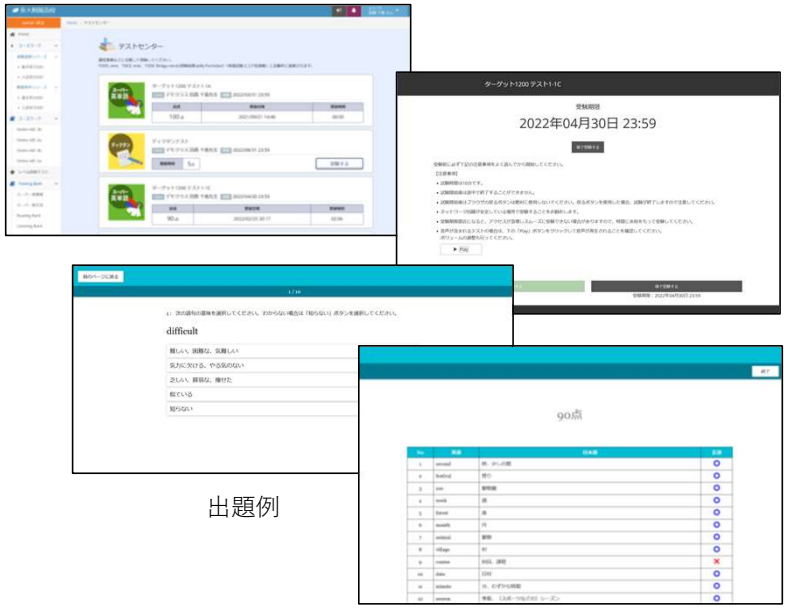
豊富な問題群から類似問題などを選択



問題集作成画面例

※学校で利用する単語帳と答えがマッチする単語問題集を選択し、独自の問題集として構成。これにより既存の授業の流れに組み込みやすくしました。

クラスごとに配信から集計まで自動的に処理

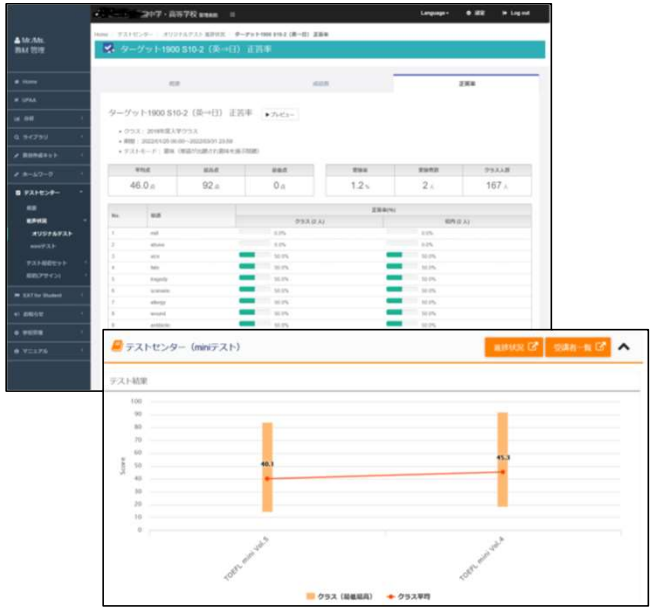


出題例

解答結果例

授業に合わせた配信スケジュールを設定することで現段階で必要な教材だけを表示させるなどの工夫が可能となりました。

テストの設問別回答率や異なる期間のテスト比較などもシステム上で簡単に確認



解答結果が自動集計され設問ごとの回答率や全体の平均なども自動集計しています。

◎ 課題２における導入校での具体的な活用事例

✓ 従来紙で実施していた小テスト通り、学校（学年）指定の単語帳から同じ範囲と分量のテストを作問し定期的に朝活や授業内で実施。
例）湘南白百合学園高等学校1年生：ターゲット1900
洛南高等学校1年生：LEAP
サレジオ学院高等学校1年生、2年生：新ユメタン1、新ユメタン2

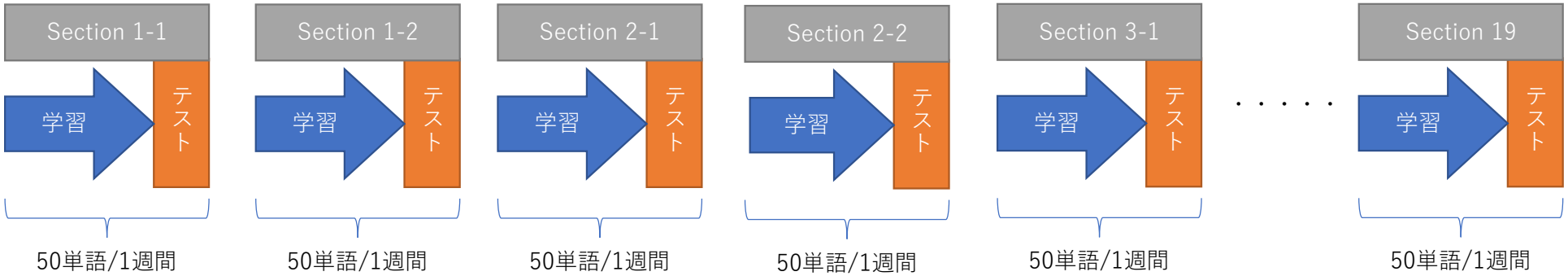
【実施方法】

- 「ターゲット1900」の掲載順に1週間に50語ずつ学習する課題を準備
- 学習した翌週に「確認テスト」を行う

※学習する単語はCollegePathwayの**「ホームワーク」機能にて自動的に配信**する。
※単語テストはCollegePathwayの**「テストセンター」機能にて自動配信、自動採点、集計**を行う。

【配信設定】

1週間に50問の英単語を課題として学習してもらい、そのあとにミニテストを実施。そのパターンの繰り返しで多くの単語に触れる機会を提供。



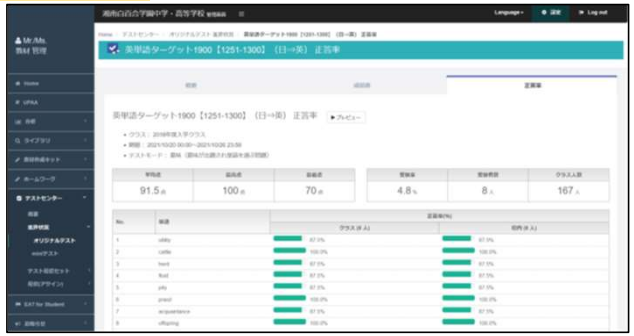
interface × College Pathway

湘南白百合学園様（神奈川県）での活用事例　③英単語課題学習モデル

塾・予備校に通わずとも教育の質を担保する」ことを基本とする湘南白百合学園様では、
学校での学びを深めるツールとしてCollege Pathwayの導入をお試しいただきました。

②生徒画面には課題やテストがスケジュールに従って自動配信

①学校で利用されている単語帳をもとに独自の課題を作成・配信



③クラス単位の学習履歴を一覧CSVにて出力も可能

生徒さんたちは授業の合間や自宅での学習として活用していただきました。タイピング問題などもたくさん取り組んだおかげで、タイピング速度が向上したことも実感していただけたようです。
マイレージや学習時間などの見かけの評価に敏感であることも興味深いなどのご意見もいただきました。

※サービスの支援として、課題の作成や配信に関するサポートを提供させていただきました。

● 導入先 学校等教育機関等へのサポート　具体的説明

★：オプションサービス

導入説明会 → 申込受講者登録 → 通常保守（課題作成支援★ → 学習状況中間報告★ → 総合分析★）

システムを利用していただく先生方に導入説明会を実施しました。
コロナ禍のためZoomによるオンライン会議にて、システムの特徴や、利用法などをご説明しました。

<u>受講者の登録やクラス分けなど</u>
サービス開始に必要なサポートを行いました。

学校での導入効果を高めるべく学校のニーズにあった課題作成の支援を行いました。
主に**<u>学校独自の単語帳を作成し、日々の課題として活用していただきました。</u>**

独自のデータをもとに、学内での利用状況などを分析し、中間報告を実施

2回のアセスメントテストデータをもとに生徒の学習行動と英語力の分析を行いました。
（分析結果については次項にて）

利用者数の変化や期間中の総学習時間分布など学習データの分析を中間報告として作成しました。

本プロジェクトにご参加いただいた学校

No	都道府県	参加校名	登録人数
1	東京都	桜丘中学校	315
2	東京都	桜丘高等学校	879
3	東京都	啓明学園中学校	196
4	東京都	啓明学園高等学校	380
5	神奈川県	湘南白百合学園中学校	494
6	神奈川県	湘南白百合学園高等学校	489
7	神奈川県	サレジオ学院中学校	185
8	神奈川県	サレジオ学院高等学校	360
9	愛知県	愛知県立刈谷北高等学校	1122
10	京都府	洛南高等学校附属中学校	847
11	京都府	洛南高等学校	1314
12	兵庫県	賢明女子学院中学校	116
13	広島県	英数学館中学校	83
14	広島県	英数学館高等学校	158

総計　6,938名

※本教材は英語教材ということで主に、英語担当の先生方にご協力をいただきました。

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

本ツールの導入によって得られた効果例として、図１学習時間帯のグラフから**深夜帯以外は万遍なくシステムが利用**されており、システムの稼働率が安定していることがわかります。これはシステムを導入する上での**投資効果としては非常に高い**ものと思われます。図２のスキル別学習時間なども分析することで、大学受験などに向けた、**学習のバランスを意識させる**など、指導に役立てることができるのではないかと考えています。

これらの基礎データとなる学習履歴の詳細情報を見ることで、従来学校側ではあまり知ることのできない情報を参照でき、**個々の学生の学習に対する取り組み状況に対する新しい側面**を伝えることができました。

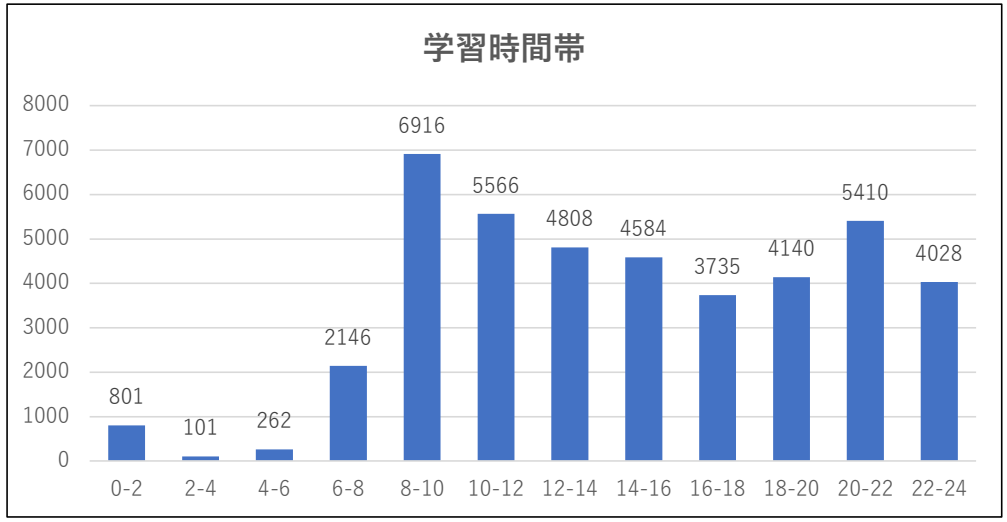


図1

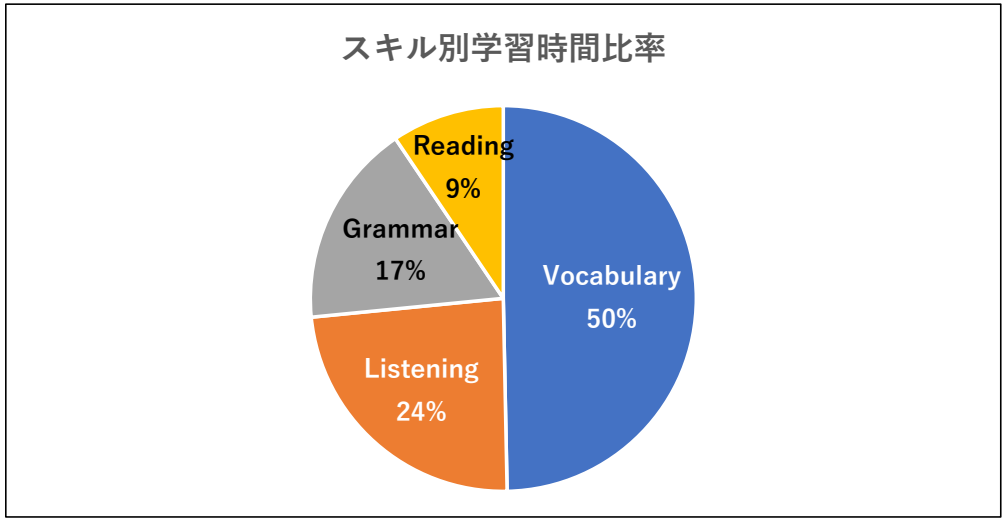


図2

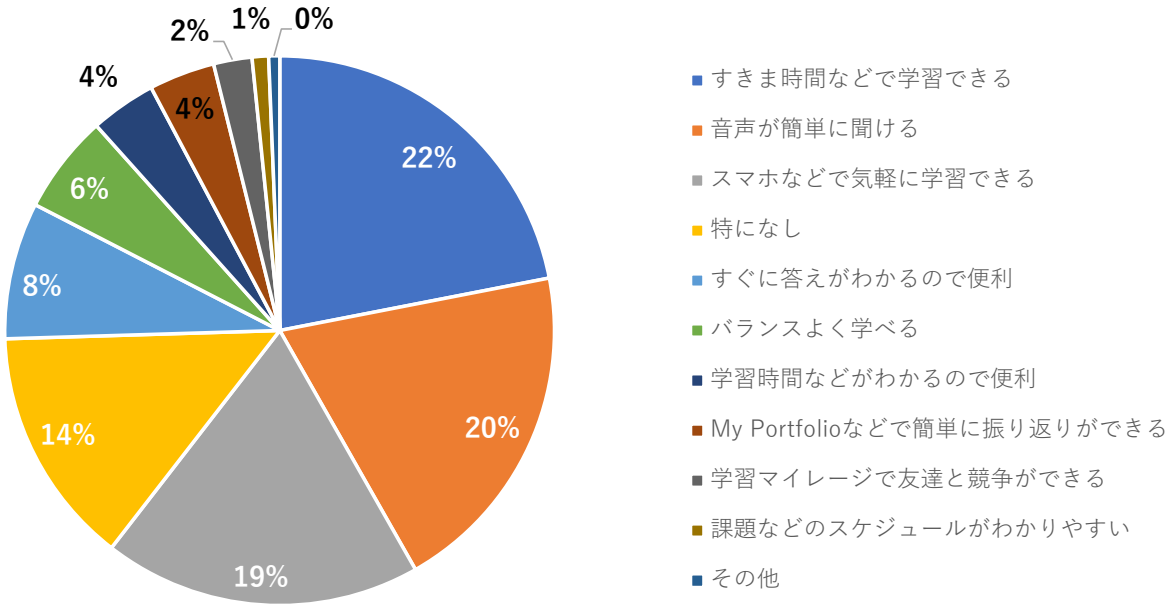
■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

interface × College Pathway

◎ オンライン調査　～生徒からの回答とコメント～

✓ CollegePathwayにあるアンケート機能を利用して全生徒に送信しました
✓ オンライン調査の回答者数：**620名**からの回答をまとめています。

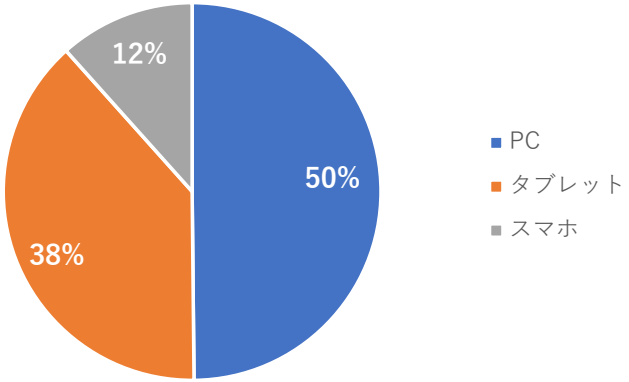
本で英語を学ぶのことに比べ、CollegePathwayで学ぶメリットは何ですか？
最もメリットと感じたものを１つ選択してください。



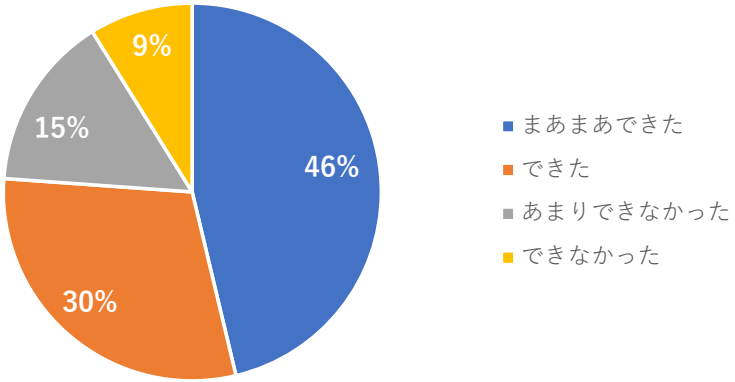
■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

interface × College Pathway

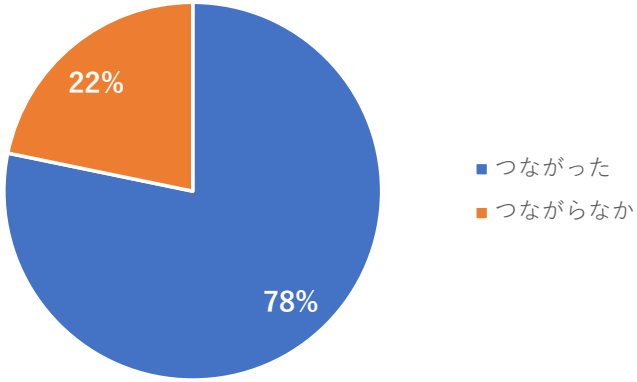
CollegePathwayを主に利用した環境・端末はどれでしたか？



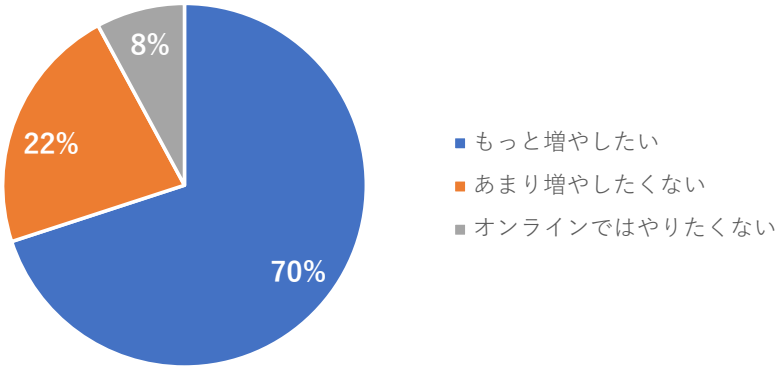
自分のレベルにあった教材を利用できましたか？



自分の単語数を把握することは学習のモチベーションにつながりましたか？

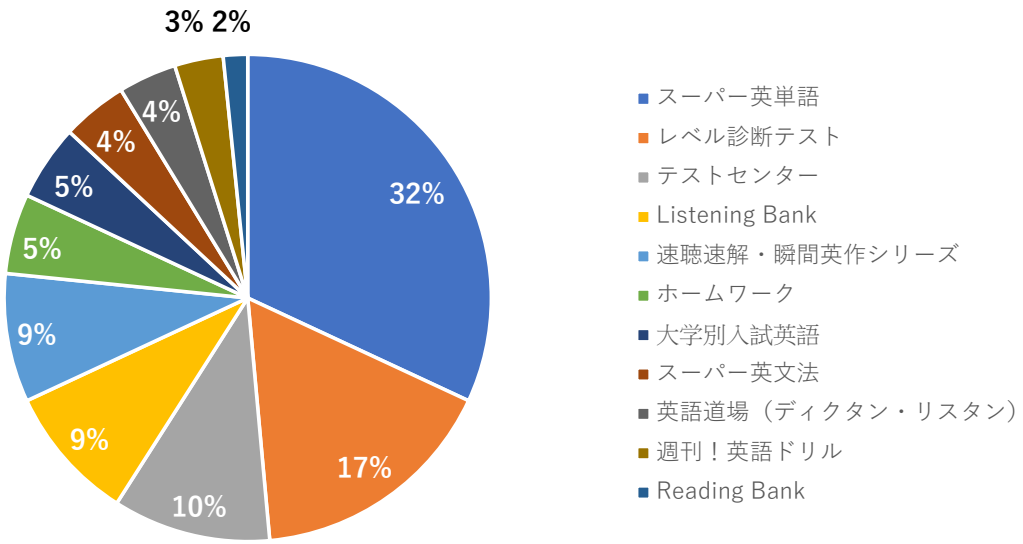


CollegePathwayを利用した学習をもっと増やしたいと思いますか？



■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

CollegePathwayでは次のような教材を学習することができます。最も学習に役立つと感じた教材を１つ選択してください。



＜生徒の声＞

スーパー英単語

- 単語をわかったものとわからなかったものに振り分けてくれるのが便利。
- 分かるところと分からないところが円グラフ化するので、分かるところを増やそうという楽しい気持ちになる。
- 中学単語の復習などしやすい。

Listening Bank

- 自主学習だとやりにくいリスニングが気軽にできるところとかが良いと思った。
- ディクテーションはリスニングにもつながるし、一番楽しかった。
- リスニングと単語、短文を効率良く学習することができた。

Reading Bank

- 初歩的なことから模擬試験まで幅広く学習できた。
- 速読の練習が他のアプリよりも優れていて、役立っていると感じた。

テストセンター

- ホームワークで英語の勉強をしたあとにテストをするのが良いと思った。今後もこの２つ、ホームワークとテストセンターを有効に使い、理解を深めていきたい。

ホームワーク

- 学校の課題テストなどの勉強がすぐにできる。

■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

CollegePathwayを利用するにあたり、良かった点や悪かった点など自由な感想をご回答いただきました。

生徒からの声

＜良かった点＞

- 様々なコースが選べ、**その時々で自分の学びたい分野をペースに準じて取り組むことができ**、自分の現在の英語力を再確認する機会となり大変実のある教材として使うことが出来ました。
- Reading、Listening、Writingの3つの技能がオンライン上で簡単に、**自分にあったレベルに合わせて使用できることが良い**点と感じた。
- **学習マイレージが増えることがとても嬉しかった。**これからも続けていきたいと思う。
- 単語と文法どちらも広範囲に渡って網羅されており問題量も多く満足した。**学習マイレージも自分の自信、モチベーションにつながる。**
- 自分がどれくらいかを数値で出し、比較することによって自分に足らないものをより簡単に把握することができました。 大学受験入試英語なども今後解いてみたいなと思いました。
- 音声など聞きやすかったり、**苦手な単語はまとめてくれていたりするので、復習がしやすかった。**
- 自分の知らない単語や文法、苦手な長文読解など効率よく自分の勉強を行うことができた。

＜悪かった点＞

- **教材がたくさんありすぎてどこから手を付けていいのかわからなかった。**
- **目が疲れる。**モチベーションを維持できない。ログインが面倒。
- 教材が豊富なのは嬉しいがどの**教材が自分に適しているか迷ってしまう**

＜教員からの声＞

- 毎週の小テスト作成の**手間が確実に軽減された**
- 作成した小テストが一括管理され、**英語科全体で情報共有しやすくなった**
- 採点時間が軽減された
- 長期的には、過去データも含めたデータ収集やデータ分析ができるので、今後も継続活用したい
- **生徒の回答傾向が瞬時にわかるので、間違えやすい問題を生徒への指導に生かすことができるようになった**
- 小テストをICTで行うことにより、**生徒自身の英語の成績が目に見える成果となって生徒にも認識でき**、**生徒のモティベーション向上になった**

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

interface × College Pathway

その１：サービス継続利用のキモ ID・パスワードの管理

乱立するICTサービス群を利用するユーザにとって、**サービス利用のためのID・パスワード管理**は管理者ならびに受講者にとって**大きな負担**になっており、今後どのサービスを利用するにしても、これらを軽減することは非常に重要なポイントと思われます。
弊社製品も、これらの改善を図るため、**シングルサインオンなどの対応**を早めに進めていきたいと考えています。

その２：サービスの「進化」と「深化」で EdTechツールの価値を向上

EdTechツール群はまだ、登場から月日が浅いこともあり、様々な面でまだまだ発展の余地があると思われます。一方で先生方の中には利便性より、不慣れなツールを利用しないことでリスクを回避する傾向もあり、継続的に利用する不安も多いかと思われます。しかしながら、世の中の流れとして、IT化による業務効率化についてはどのような業界でも待ったなしの状況のため、将来を担う子供たちにとってはこれらを使いこなす技術は大きな学びとなるかと思います。サービスを提供するベンダーとしては、**時代に即した技術を提供**し続けるとともに、**継続的な利用で、従来の教材群の単なるリプレイスではなく、EdTechツール利用自体があらたな価値を生むような「進化」と「深化」**をとげることができるよう、教育現場と開発組織がより近い立場で対応できる組織作りを行いたいと思います。

その３：サービス改善のためのサポート品質向上

今年度は、新型コロナウィルス発生から2年目ということもあり、オンライン会議などは比較的スムーズにおこなうことができましたが、やはり**オンサイトでの面談や説明会に比べ、相互の信頼感を育む点においてまだシステムを有効活用できていない**と感じました。
これらを解決することは難しい点も多いですが、FAQなどの充実を図り、類似の問題点を素早く解決できるような情報提供と体制づくりを提供していきたいと思います。

■ 会社概要

会社・事業内容のご紹介

会社名	株式会社エル・インターフェース
英語名	L-Interface Co., Ltd.
会社所在地 連絡先	〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-18-20 代々木フォレストビル E-mail: academic@supereigo.com
設立	2001年6月14日
資本金	25,000千円
売上高	150,000千円
経常利益	6,000千円
役員	代表取締役社長　高橋　新悟
事業内容	ソフトウェア開発　・　コンテンツ開発 Webシステム運用保守　・　教育支援サービス
主要取引先	学校法人：（順不同敬称略） 青山学院大学・立教大学・中央大学・法政大学・東京理科大学・芝浦工業大学・東洋大学・日本大学・筑波大学・一橋大学・東京農工大学・埼玉大学・名古屋大学・滋賀大学・同志社大学・京都工芸繊維大学・大阪市立大学・熊本学園大学・佐賀大学・長崎大学他100校以上の国立・私立大学 官庁・企業：（順不同敬称略） ダイヤモンド社・朝日新聞社・ベネッセ・KDDIグループ等

ISO/IEC 27001:2013　JIS Q 27001:2014
2019年6月 認証取得

※TOEFL/TOEIC/TOEIC Bridge/IELTSは各社の商標または登録商標です。（本資料では商標表示(TM,(R))は省略しております。）

学校法人向けEdTech製品（スーパー英語.com）一覧

2021年 第18回日本e-Learning大賞
キャリアアップ教育特別部門賞受賞

UPAA Suite

EAT English Assessment Test × College Pathway × UPAA apply

小・中・高校向け

College Pathway カレッジパスウェイ

英語の基礎を培う

大学・短大向け

Academic Express 3

第8回 日本e-Learning大賞 奨励賞

教養英語を鍛える

Academic Express 2

旧バージョン

スーパー英語.com The English Language Materials Bank

https://www.supereigo.com/

ディクタン

第9回 日本e-Learning大賞 英単語部門賞

ディクテーション・アプリ

the Bridge

英語「で」学ぶ力を強化する

生徒の学習行動と英語力に関する考察

本プロジェクトでは**生徒の自律的な学習行動から日頃の自主学習をどのように取り組んでいるのかを観察**し、その学習データと英語力の関係を分析しました。ここでの『英語力』はCollegePathwayのオンライン模試のスコアに置き換えて表現しています。オンライン模試は3種類のテストを用意していますが、生徒の習熟度に応じて主に先生が選択しました。オンライン模試は各2回実施し、受験者の多かった回のものを分析に採用しました。

生徒が受験したオンライン模試の各スキルスコアと総合スコアの相関関係は次ページの通りですが、その総合スコアと生徒の学習行動のデータを使って分析しています。分析テーマは次の４つとなります。

分 析 テ ー マ

❶ 学習時間と英語力の関係

❷ どのスキルの学習が英語力に影響したか

❸ 学習の習慣と英語力の関係

❹ 単語数と英語力の関係

◎～生徒の学習行動と英語力の分析～

ここでは、EdTech導入補助金2021のプロジェクトにご参加いただいた14校の学習データ群から英語力の変化に関連する要素について総合的な分析を行いました。

検証項目

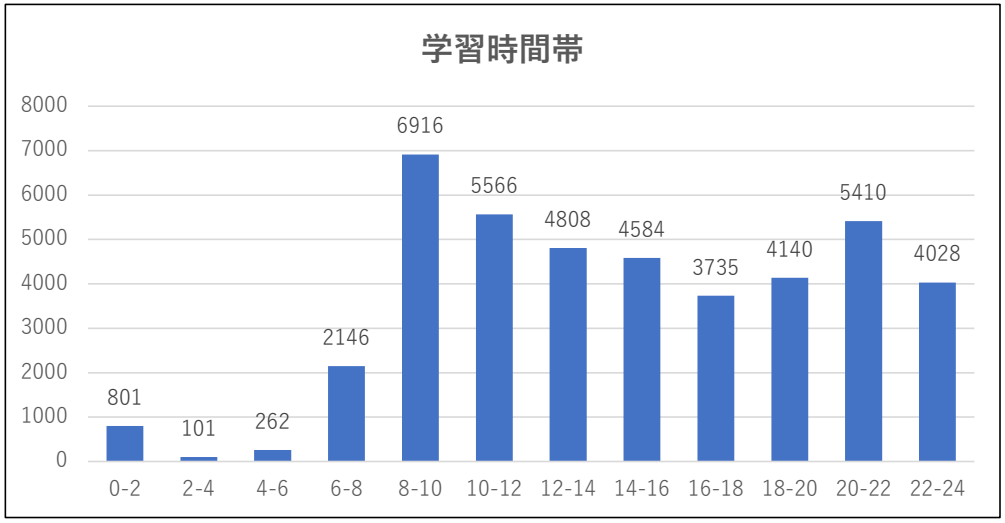
生徒は日頃どのように学習しているのか？
生徒の学習行動に共通した習性はあるのか？

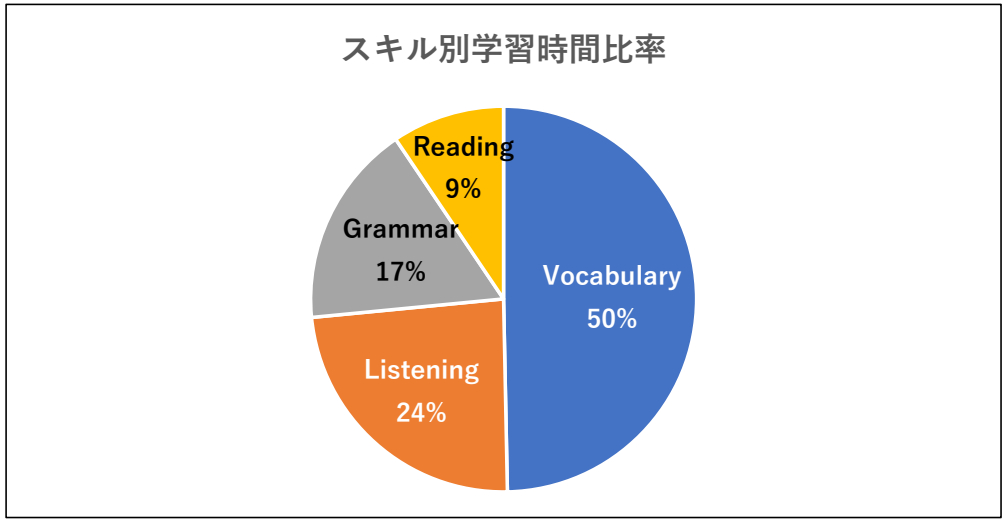
検証方法

① CollegePathwayは様々なレベルの学習コンテンツが搭載されていることから、生徒の自律的な学習行動を尊重
② 生徒の英語力をCollegePathwayのテストセンターにある(1)TOEIC Bridge　(2)TOEIC　(3)TOEFLのオンライン模試で測定

検証方法①

バイアスデータを極力除去するため生徒の自律的な学習行動を尊重し、授業内での利用は小テストなどに限定した（しかし自学自習を促すための喚起メールなどは実施）。そのため学習時間帯も朝活と深夜を除き平準化している（少なくとも放課後以降の学習は自律的な学習と思われる）。スキル別の学習時間ではボキャブラリーの学習時間が半分を占めたが、それは小テストの９割が単語テストを利用した影響が大きい（単語テストはボキャブラリーの時間に自動集計）。





■ EdTech導入補助金2021活用による成果の分析と考察

interface × College Pathway

検証方法②
✓ テストの**実施日やテスト種類の選択は生徒の習熟度に応じて主に先生が決定した。**複数のテストを受験した生徒は先生の指示したテストを採択。
✓ 各種テストは実際のテストの約３分の１スケール（リスニングとリーディングのみ）で満点は100点。本プロジェクトでは英語力をテストスコアに置き換える。

【受験者数】

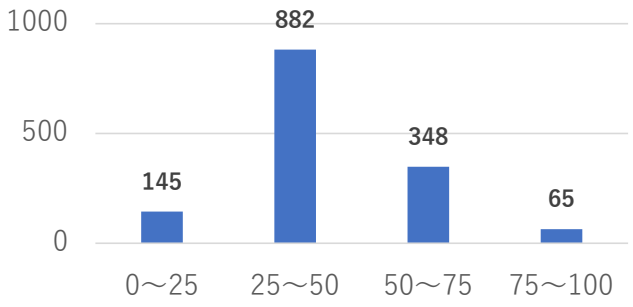
総数	中1	中2	中3	高1	高2	高3
2317人	329	504	171	635	639	39

【試験概要】

	問題数	受験時間	受験者数	平均点	最高点	最低点
TOEIC Bridge	30問	20分	1440人	42.6点	94点	6点
TOEIC	41問	25分	256人	48.0点	92点	13点
TOEFL	50問	40分	621人	40.6点	84点	6点

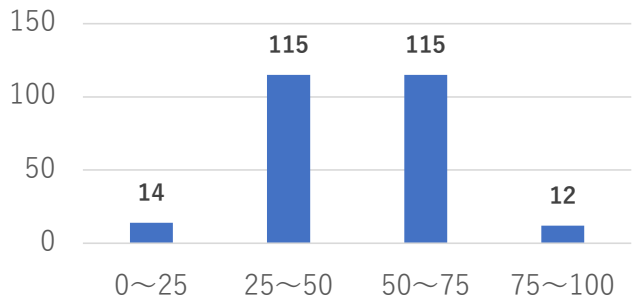
TOEIC Bridge

スコア分布



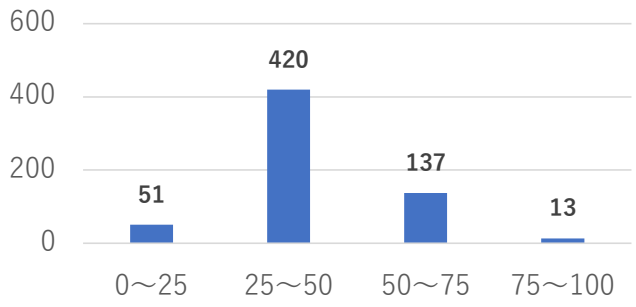
TOEIC

スコア分布



TOEFL

スコア分布

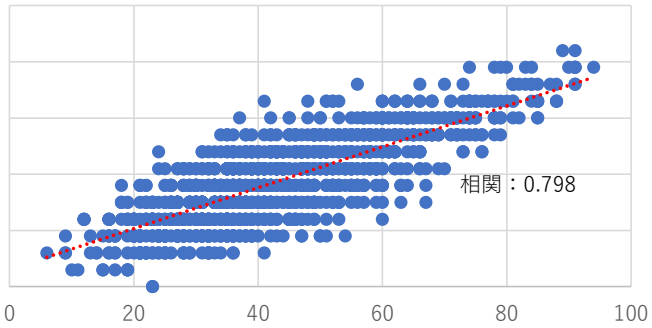


各スキルスコアと総合点の関係

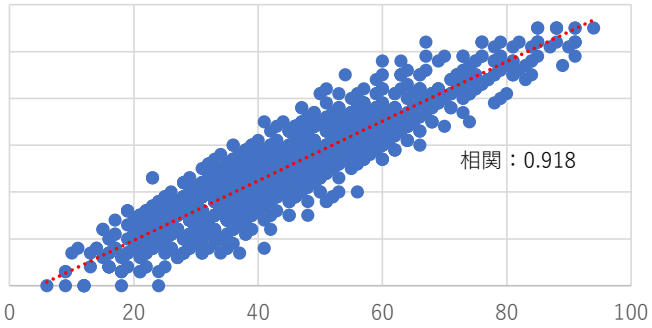
・3種類のテスト全てにおいて**リスニングよりもリーディングの方がテストスコアと相関関係が高い。**

TOEIC Bridge

リスニングと総合点の相関関係

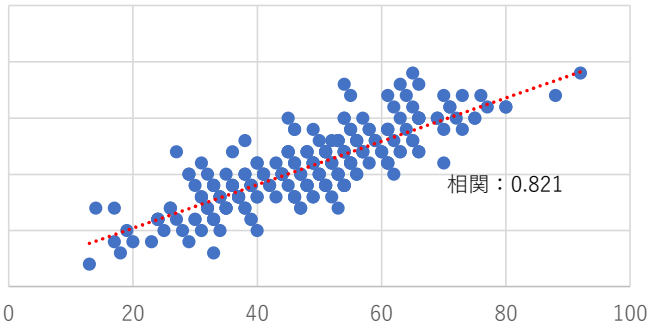


リーディングと総合点の相関関係

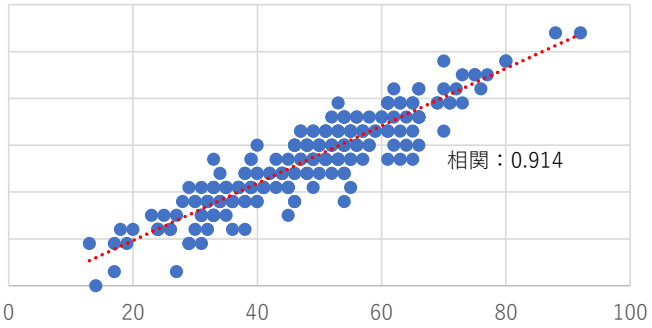


TOEIC

リスニングと総合点の相関関係

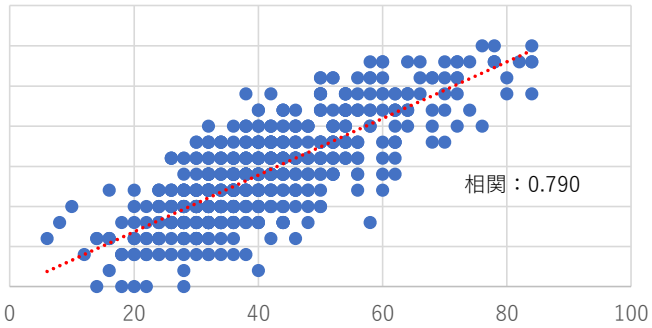


リーディングと総合点の相関関係

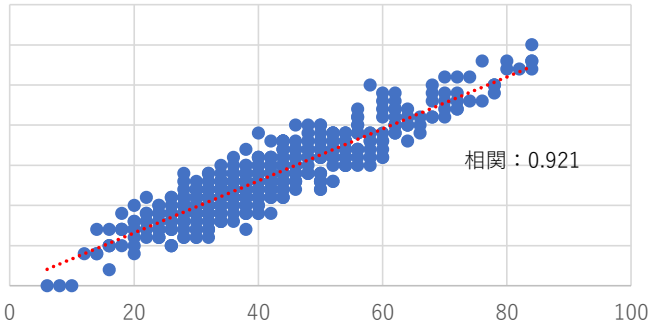


TOEFL

リスニングと総合点の相関関係



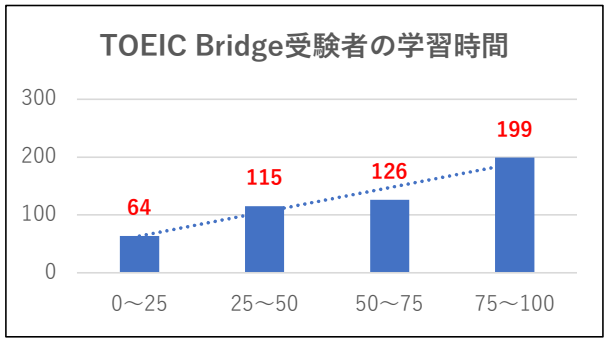
リーディングと総合点の相関関係

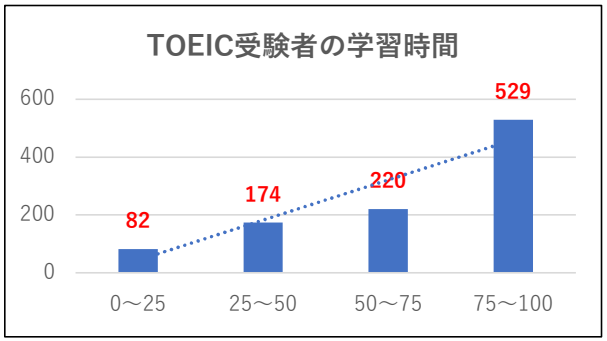


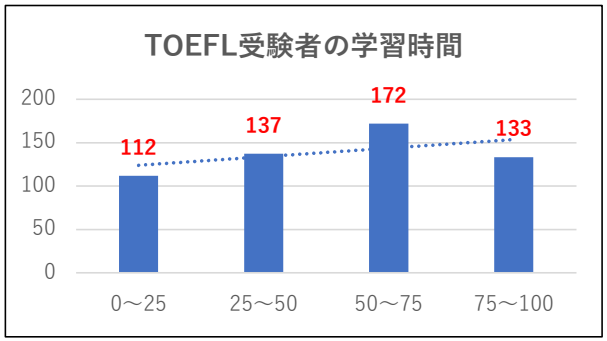
■ EdTech導入補助金2021活用による成果の分析と考察

＜❶＞学習時間と英語力の関係

・**学習時間とテストスコアはほぼ比例**している。

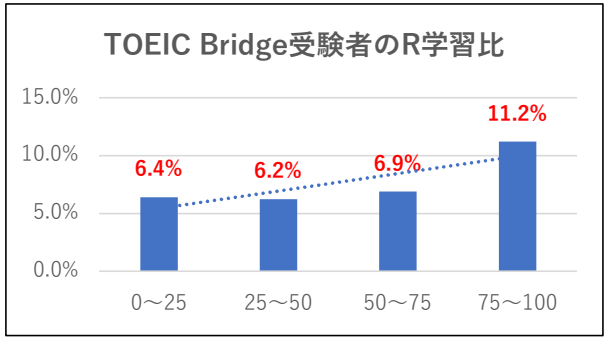


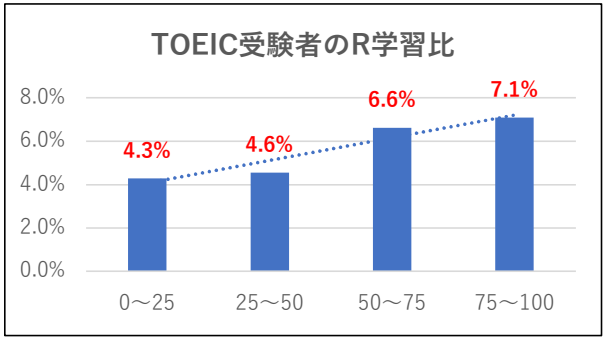


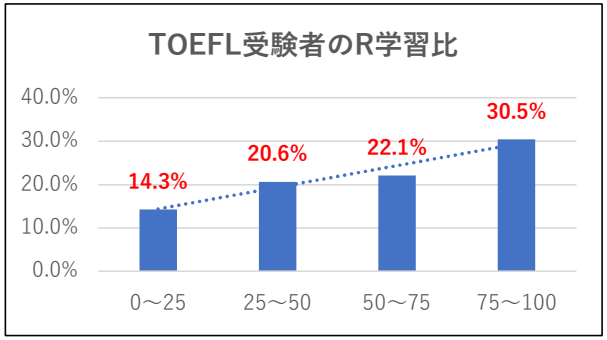


＜❷＞リーディング学習比率と英語力の関係

・**Readingの学習比率が高い生徒とテストスコアは比例**している。

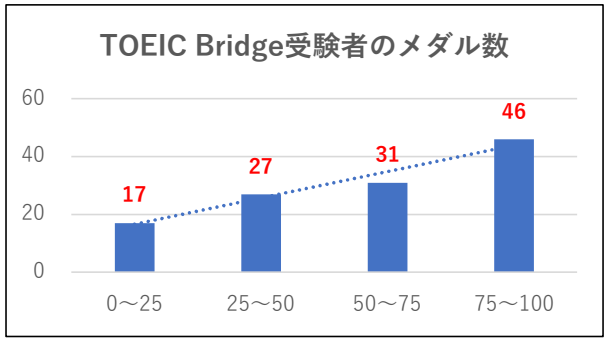


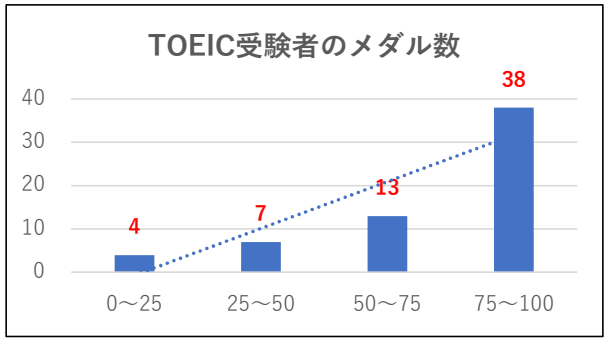


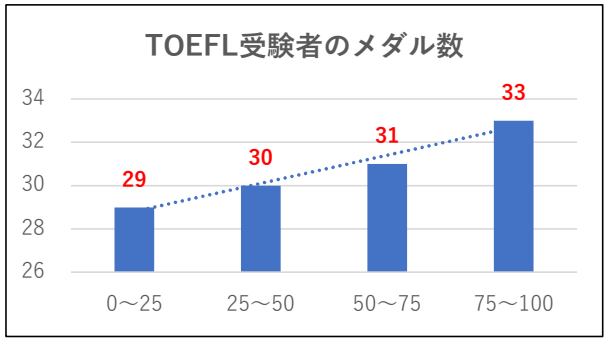


＜❸＞学習習慣と英語力の関係

・学習の習慣とテストスコアは完全に比例している。

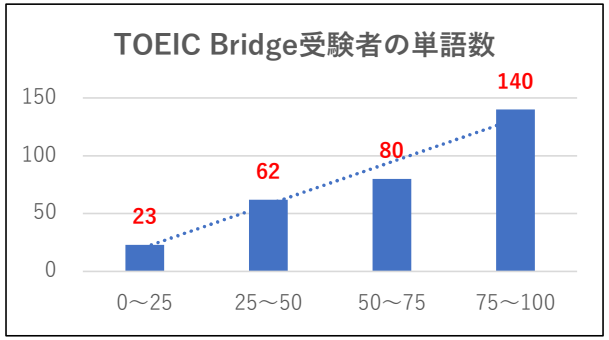


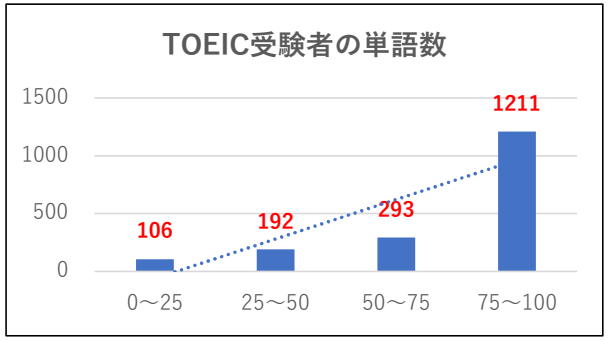


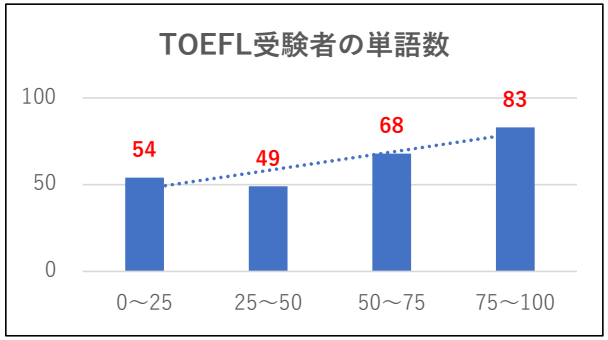


＜❹＞単語数と英語力の関係

・単語習得のためにスペルまで覚えた生徒とテストスコアはほぼ比例している。







ー　総　評　ー

オンライン模試の結果、**ReadingがListeningよりも総合スコアとの相関関係が高い**ことが示されました。それはReadingを鍛えることが最も英語力に結びつくことを意味します。実際、**英語力の高い生徒ほどReading学習に取り組んでいる傾向**がみられました。そして**英語力の高い生徒ほど学習時間が多く、学習習慣も身についている**ことが示されました。

さらに特筆すべきは英語学習に対する姿勢です。大半の生徒が覚えた単語数を増やすために「意味」だけの正解でその単語の学習を終えてしまうなか、少し面倒な**「スペル」まで挑戦した生徒の学習行動は英語力に直結**していることが示されました。単語数を競わず確実な理解を心掛ける学習姿勢に英語力向上のヒントがあるのかもしれません。ご参考までに「意味」だけを覚えた単語数と英語力に相関関係は全くありませんでした。

本プロジェクトでは、❶学習時間と英語力の関係　❷どのスキルの学習が英語力に影響したか　❸学習の習慣と英語力の関係　❹単語数と英語力の関係といった『英語に関する素朴な疑問をデータを使って検証』してきました。現場を担う先生方にとっては当然の帰結だったかもしれませんが、とかく教育については（政治家や保護者をはじめ）100人いれば100通りの教育論があると言われ「べき論」や「経験談」で語られてきました。しかし教育の現場においても様々なデータを取得できるようになった今、「経験」や「直感」に加え「データに基づいた客観的なファクト」も取り入れることで、より一層説明力や納得感が高まるのではないでしょうか。